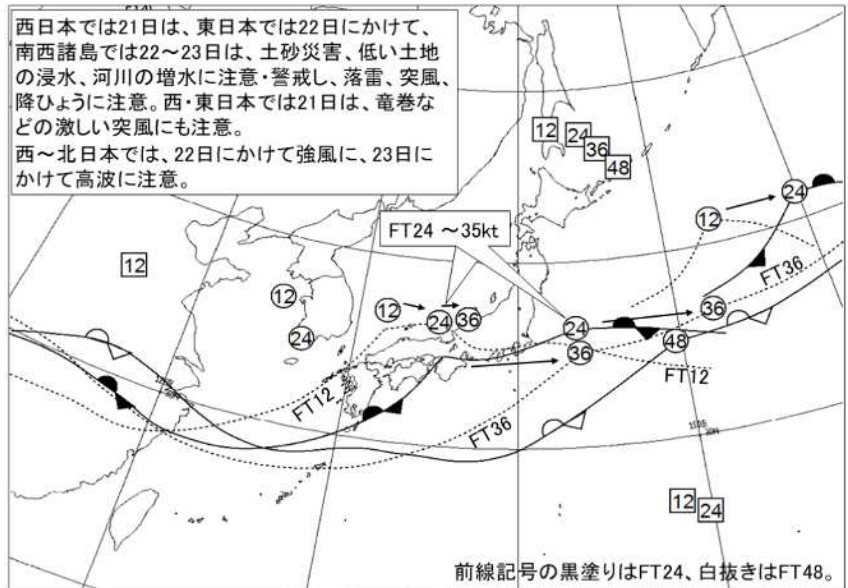


## 1. 実況上の着目点

- ① 寒冷渦と対応する地上低気圧が黄海を南東進。500hPa5760m付近で前線が閉塞。トラフに伴う500hPa正渦度極大域は朝鮮半島～日本海西部～九州西方の東シナ海。その東側では前線が西日本の日本海沿岸まで北上。西側では、上空は乾燥空気が西から貫入し、九州西方を南下中の地上前線よりも先行している。
- ② 下層暖湿気の経路は、東シナ海～対馬近海と、高気圧の西縁に沿って西・東日本の南岸に向かうものがあり、20日夜遅く～21日未明にはそれぞれ一時非常に激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の500hPa正渦度極大域は21日夕方には東日本～九州の南まで進み、強風軸の南下に伴い、西日本の前線は21日夜には太平洋沿岸まで南下する。また、500hPa5700～5760mの正渦度に対応し、低気圧が21日朝までに前線北側の日本海西部に発生、別の低気圧が21日夜までに関東の東の前線上に発生する。日本海西部の低気圧はゆっくり東進し、上層トラフが先行する22日夜までに北陸地方で不明瞭化する。前線は22日にかけて、伊豆諸島近海から奄美地方まで南下して停滞する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨が降り、大雨となる所がある。太平洋側では上記の500hPa正渦度極大域に対応して対流雲発達のパークが東へ移動する。一方、日本海側では動きの遅い低気圧周辺で対流雲が発達し、局地的に雨量が多くなる所がある。西日本では21日は、東日本では22日にかけて、南西諸島では22～23日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。このうち、西・東日本では21日は、竜巻などの激しい突風にも注意。
- ② 2項①の低気圧や前線の影響で、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西日本では21日は、東・北日本では22日にかけて強風に注意。東進する低気圧と北側の高気圧との間の広い範囲で強風が続くため、東日本太平洋側を中心に高波が長引き、しける所もある。西日本では22日にかけて、東・北日本では23日にかけてうねりを伴う高波に注意。
- ③ 23日には、高気圧の中心が北海道東方に移り、トラフ接近に伴い西日本の南海上で前線が北上し、夜までに低気圧が発生する。日本海にも別の低気圧が発生する。西日本太平洋沿岸では、下層暖湿気の影響を受け対流雲が発達する。西日本では23日は再び、落雷、突風、局地的な激しい雨に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

- 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：東海・近畿150、関東甲信・北陸・四国・九州南部100mm。② 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島4、東海・近畿・中国・四国・九州北部3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東・西日本では注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「雷と突風に関する全般気象情報」を05時頃に発表予定。